

平成 26 年度 第 4 回 河内長野市文化振興計画推進委員会 議事録

【日時】平成 26 年 12 月 16 日（火）午後 6 時 00 分～午後 8 時 00 分

【場所】市役所 6 階 602 会議室

【出席者】

＜河内長野市文化振興計画推進委員会委員＞

末延 國康・浅尾 広良・荒川 透・今村 尚美・来村 多加史・中道 厚子・長山 公一・  
中脇 健児・寶楽 陸寛・水落 学・安福 迪子

＜事務局＞

（河内長野市教育委員会事務局文化・スポーツ振興課）

大江・森井・上田・東畑・西尾

（ランドブレイン株式会社）

西村

【配布資料】

- ・平成 26 年度 第 4 回河内長野市文化振興計画推進委員会 次第
- ・資料 1-1 文化施設評価軸総括
- ・資料 1-2 各委員の評価
- ・資料 2 策定スケジュール
- ・資料 3-1 各種統計等の整理
- ・資料 3-2 河内長野市文化振興計画の実施状況表
- ・資料 4-1 関係課ヒアリングまとめ
- ・資料 4-2 関係課ヒアリング結果
- ・資料 5 河内長野市文化振興における課題
- ・資料 6 第 3 回河内長野市文化振興計画推進委員会 議事録
- ・別紙 1 安心安全な街ランキング

以上

(委員長挨拶)

**末延委員長**

文化事業の評価について、事務局より説明よろしく申し上げます。

((1) 文化事業の評価に関する検討結果について)

**東畑主査**

資料2の計画策定のスケジュールをご覧ください。本日は、案件1の評価軸に関する議論の内容や今後実施する予定の市民アンケート調査を、次期計画の素材を考える上で活用していただき、今後の次期計画の内容の項目検討をお願いいたします。

**末延委員長**

案件1の評価軸について宝楽委員より説明をお願いします。

**宝楽委員**

資料1-1をご覧ください。前回の委員会での議論をもとに評価をまとめた。持続では各事業が単発で終わっていて、中長期的な事業のあり方について課題が見えた。福祉では指定管理者としては優先しにくい項目ではないかという意見があった。ただし、親子ルームのことなど、社会課題に対してできることはあるのではないかという意見もあった。認知では、新聞掲載件数が年間9件で露出件数が少ないのではないか、また、ウェブ等での露出件数については、ブログ更新を行っているがアクセス数が少ないのではないかという議論があった。

また、評価の前提として、文化行政や河内長野市にとって必要な文化を具現化するのがラブリーホールの今後の役割とするなら、福祉という視点は外せないと思う。さらに、次世代の担い手の育成と、人を育てる・つなげることの連環の2点は今まで強調されてきたことだと思う。それに対して、今後河内長野市としてどうしていくのかが大きな課題と言える。

認知については、特定の文化に関心のある市民にしか情報が届いていないのではないかという意見があった。ラブリーニュースや広報などは、興味のある市民が読むものとなっているのが現状であり、今後工夫が必要だと思う。

**末延委員長**

ありがとうございます。まとめについて意見を求めたいと思う。

**中道委員**

資料1-1の一行目に評価が高いものとして⑧収益が挙げられているが、他の項目をみると、満足のようにもっと点数が高いのに加味されていないものがある。収益はそれほど高くないので、入れ替えた方がいい。

**中協委員**

福祉と認知については課題とまとめているが、「福祉」という分野自体が、文化施設が担うべき本来の役割から外れているのではということがある。しかし、今後「福祉」も文化施設の担う役割として必要ではないか、というのが委員会の意見である。それを検証するために、市民アンケートの質問項目の中にも盛り込み、市民へと投げかけようとしている。

市民が実際どう思っているかが見えてくると、「福祉」を文化施設の課題として設定するかどうか分かると思う。

**末延委員長**

資料 1-1 の裏の小項目について見てください。絶対評価等、具体的に書かれているが、どうか。①持続からご意見をいただきたい。

**宝楽委員**

①持続の連環／連携性について文章中では抜けているが、地域資源との連環という視点からは取り組みができていないという意味です。

**中脇委員**

この評価のまとめは、委員会におけるラブリーホールに対する検討に一定の区切りをつけ、今後の参考資料とするというものでよいのか。このまとめをきっかけに、文化振興計画の検討の足がかりにしていく程度の資料となるのか。

**末延委員長**

そうです。では、②理念と③福祉についていかがですか。

**来村委員**

ラブリーホールの自己評価について、整数の評価点が多くなっている。委員会のように、複数の人間で評価したものの平均ではないのか。

**東畑主査**

ラブリーホールが複数人で評価したかどうかは分かりません。

**水落委員**

目標設定について、中長期の戦略がないとなっているが、そもそもラブリーホールが、中長期の戦略を立てないといけないのか。指定管理者として、業務の期間が限られているので、10年のビジョンを語るというのは難しいのではないのか。

**中脇委員**

指定管理者の審査時に、市のビジョンに対しラブリーホールがどのようにしていくかを決めているのではないのか。

**宝楽委員**

財団がアクションプランを作成していると思う。

**末延委員長**

今年度で、指定管理者として何年目か。

**東畑主査**

指定管理者制度は5年間で1期となっています。現在、2期目の4年目です。

**中道委員**

5年間のスタンスとして、何をどう目指すかということが河内長野市文化振興財団のプランの中には書かれているのか。

**東畑主査**

河内長野市文化振興財団として、方向性を示した指定管理者指定申請していただい

ます。

**末延委員長**

評価としては低いとされた⑤認知、⑥満足、⑧収益等でご意見があればお願いします。  
広報活動について、もっと活発にという意見があったが、この点についてどうか。

**宝楽委員**

新聞メディアに掲載したのは、本当に年間9件なのか。

**来村委員**

掲載は、新聞記者が独自に取材に来て取り上げたのか、それともラブリーホールからメディアへと働きかけたのか。

**東畑主査**

ラブリーホールからメディアに宣伝していますが、取り上げられた最終結果が9件です。

**来村委員**

記者クラブ等には行っているのか。

**東畑主査**

行っています。

**末延委員長**

タウン誌はどうなのか。

**宝楽委員**

奥河内.info、未来ポシット等にラブリーホールの記事が載ることも多い。

**安福委員**

朝日新聞に個人で申し込み、掲載されることがある。それも9件の中に入るのか。

**宝楽委員**

担当者が毎日、新聞を見て、載ったかどうかを確認しているのか、また、その姿勢があるのかどうかによってもメディアへの掲載件数は変わってくる。投稿欄に載ったようなこともカウントすべきではないか。

**中協委員**

新聞へのプレゼンテーションが弱いということもあるかもしれない。主催事業が載ったことだけをカウントするのではなく、もう少し広義に露出件数を捉えてもいいのではないか。市役所にも市の取組について、新聞への掲載状況をチェックする部署があると思うが、例えばそうした部署と連携して露出件数を確認する体制を組むことはできないのか。

**末延委員長**

広報について確認する担当者は、ラブリーホールの中にいないのか。

**東畑主査**

ラブリーホールでは総務系と事業系があり、本来は総務系が行うことだと思います。市では新聞をチェックし、庁内発信しています。

**中協委員**

市は広報担当課でチェックしているのか。その情報をラブリーホールで確認できるシス

テムになっているのか。

**東畑主査**

市の事業についてチェックを行っていますが、ラブリーホールの事業はチェックしていないのが現状です。

**中脇委員**

伊丹市だと市役所でチェックしている情報が、見出しを掲載した状態で市から文化施設の管理者へと発信されている。そうした情報のリレーが現状では機能していないということか。

**東畑主査**

市とラブリーホール間では、そういった情報は提供されていない状態です。

**中脇委員**

ラブリーホールに市の職員の出向はいないのか。

**東畑主査**

出向者はいません。

**末延委員長**

ラブリーホールに関する記事のメディアへの掲載状況が把握できていないということですね。

**宝楽委員**

文化を通して河内長野市がメディアに掲載されることで、河内長野市の価値を上げているという意識、文化が社会を変えるとという視点が次の計画でも必要ではないか。

**安福委員**

チラシ等はあるとしても、来てもらわないとその良さはわからないと思う。まずラブリーホールに来てもらうことが重要である。

**宝楽委員**

都市創生課の方に聞いたが、市外に転出した人に河内長野市の魅力を何で説明するかと聞いたところ、1番はラブリーホールであった。認知にも繋がることなので、今度の市民アンケートの結果は楽しみ。この話は今後都市創生課の方に聞いてみてください。

**東畑主査**

確認します。

**末延委員長**

見方を変えると、ラブリーホール以外の施設が発信力が弱いと言えるのではないか。公民館や趣味に近い活動でも、人や団体がそこに留まるのではなく発信力を高めることが必要だと思う。

**中道委員**

③福祉の「社会課題・地域課題への機会提供」の本文だが、「ラブリーホールが優先的に取り組む項目ではないが」という言葉があることで、ラブリーホールが取り組むことではないという言い訳になってしまう。これを外した方がいいと思う。

**宝楽委員**

そこまで現状の指定管理者制度の中で求めるべきかどうかという意見があり、議論の余地を残すためにわざとその文言を入れた。

**来村委員**

この文書は我々委員に対する文書なのか。もしラブリーホールに渡るのであれば削った方がいいと思う。

**末延委員長**

文化振興の次のステップを検討するための資料です。

**東畑主査**

今のところ、資料を外に出す予定はありません。

(2) 計画策定のスケジュールについて

**東畑主査**

議案 2 については、冒頭にてご説明しました。詳しくは、資料をご確認ください。

(3) 河内長野市の文化に関する現状について

**東畑主査**

議案 3、4、5 について、次期計画内容をご検討いただきます。

庁内各課のヒアリング資料については、各課の担当職員から、文化振興に係るその部署の課題や要望を聞くという形で取りまとめたものです。

**ランドブレイン西村**

<資料 3-1 解説>

資料 3-1 をご覧ください。河内長野市の文化に関する現状ということで、文化以外を取り巻くもの、統計的なものを含めてまとめた。

なお、参考資料として資料 3-2 がある。現行の文化振興計画の実施状況を取りまとめたもので、着手・未着手状況を整理している。

資料 3-1、1 ページ、近年の文化行政の全国的な動向についてまとめた。2 ページ、大阪府の動向についてまとめた。3 ページ、各地の取り組み事例として、全国の 3 つの公共ホールの取り組みを現状調査の一環として取り上げている。5 ページ、人口・年齢の動向の統計データをまとめた。本計画の目標年次である 10 年間を見ると 10 万人を切るという推計が予想される。7 ページ、週刊東洋経済による「安心・安全な街ランキング」という順位付けで、河内長野市は府下でも上位で推移している。8 ページ以降は、河内長野市の文化資源について取り上げている。10 ページでは、だんじりなどのお祭りを取り上げている。さらに他にはどういったものを地域資源とするのかを担当課と調整し、補完していく。11 ページ、資料の 3-2 とも関係するが、現行計画の総括を入れている。主に未実施施策と実施施策をまとめている。ポイントとしては、文化創造の基盤整備には取り組んでいるが、都市魅力の発信や、人づくりの仕組み等については着手できていない。新たな文化事業には、着手

しづらいのかもしれない。

続いて、資料 4-1 は関係課ヒアリングのまとめです。詳細の説明が 4-2 になる。

#### <資料 4-2 解説>

各課の意見の共通点として、人づくり、場作り、市民と行政が関わるなどの仕組みの課題が挙げられた。どの課でも重要と認識していることが分かったことは大きいと思う。

#### <資料 5 解説>

現状を把握し、導き出した河内長野市の文化振興に関する課題を挙げている。これは今後、市民アンケートの結果や、本委員会での議論も踏まえ変化していくと思う。

資料 5 のポイントは次のとおり。

①社会ニーズが変化中、これまでの文化創造の基盤づくり中心の施策から、都市魅力の向上や地域づくりに向けた施策への転換が求められている。

②人口減少・高齢化が予測される中、「住み続けたいまち」の魅力の一つとしてより市民の身近な生活・地域での文化活動の裾野を広げることが重要。

③「訪れたいまち」の魅力を高めるために、中心市街地と奥河内との連携や、市内に豊富にある文化財を面的に活用する取組等に貢献する文化施策が必要。

④文化施策のみならず、多くの分野において、まちづくりの担い手発掘・育成が急務であり、その仕組みの整備も含めて確実に着手できる体制の検討が必要。

⑤文化施策の進行管理の仕組みの構築も必要。

#### 末延委員長

青森県「はっち」の事例については、地元産のモノを活かすという意味合いの取り組みなのか。河内長野市だと、地場産業を活かす「くろまろの郷」のようなものか。

#### ランドブレイン西村

「くろまろの郷」に似通ったものと、文化施設が一緒になったものです。

#### 中協委員

本資料では、「はっち」は産業振興としての意味合いが強い書き方になってるが、コミュニティの活動も積極的で、ソフトコンテンツもコミュニティに開いた事業が多くなっている。河内長野市でもそのようなあり方は一つの切り口としてよいのではないか。

#### 末延委員長

文化施設の役割として、コミュニティの交流を深める、人が集まるコミュニティづくりといったことは求められると思う。

#### 中協委員

類似施設のせんだいメディアテークなどは、図書館等のメディア系施設である。東日本大震災を契機に「語る場」を毎月設けていて、オープンな場づくりということについてはかなり進んでいる。

#### 末延委員長

埼玉県の芸術監督制について興味がある。詳しく教えてください。

#### 中協委員

平田オリザさんというコミュニケーション教育で有名な方が、芸術監督として入り、その後、芸術系の若手にバトンタッチし有名な取り組みとなった。

**末延委員長**

住民の中にアーティストがいるということではなく、外部から呼んでいるのか。

**中脇委員**

芸術家を外部から招聘している。

**宝楽委員**

指定管理者制度において、事業部の職員の質を保つことが難しくなっていると思う。そういう意味では外部のアソシエイトアーティストを連れてくるのは一つの手だと思う。

**末延委員長**

指定管理者制度のメリットを活かして、外部とコラボレーションし事業が組めるということも魅力だと思う。

**来村委員**

次期計画は何ヶ年計画か。

**東畑主査**

10年です。

**中道委員**

議論において、ラブリールホールの枠はもう出て、河内長野市全体の文化振興をどうするかという大きな視野で考えてもいいのか。

**末延委員長**

そのとおりです。

**水落委員**

資料3-1について、大阪府の計画は上位計画として財政的な裏付けがあるということなのか、それとも、大阪府の計画は理念として出てきているのか。

**ランドブレイン西村**

今のところは理念として取り上げている。

**水落委員**

資料5では大阪府の計画は上位計画として出てきている。大阪府の文化振興計画を重視するということか。

**ランドブレイン西村**

各課ヒアリングでは、大阪カンヴァス事業など大阪府の事業に基づいた事業を河内長野市でも行っていることが分かったので、関連計画としては捉えておくべきと考えている。

**来村委員**

無視していいとは思わないが、大阪府の計画に影響されながら作るのか。

**末延委員長**

データとして考慮しながら、方針を立てるときに参考にする程度だと思う。

**中脇委員**



この委員会では循環・担い手育成・認知について議論をしてきた。各課ヒアリングでは循環についてニーズがあるということが結果として出た。この結果について、委員としてどう感じたのか意見を出していくと、今後の議論に役立つと思う。

#### 末延委員長

資料 4-1 のヒアリングのまとめについて意見ををお願いします。

#### 中脇委員

資料 4-1 と資料 5 で挙がっている課題の距離感を埋めていくことが、本委員会で求められていることだと思う。

#### 宝楽委員

資料 4-1 をみると、今まではラブリーホールだけの協働について議論していたが、それ以外の視点もでてきたと感じる。例えば産業政策課・都市創生課から組みませんかという打診があったり、都市魅力戦略課でも、シティプライドを高めるために文化と組みたいという話が出るなどがある。

#### 中道委員

人づくりや場づくりに注目されているということは、循環の方向性に向かっているのだと思う。共有できる軸が見えてくると、現場の想いも事業も流れだすのではないかと。

総合計画の策定では、どのようにして河内長野市の人口 10 万人を実現するのかということについて議論している。若者も高齢者も巻き込む循環がないと実現しない。だからこそ、「文化」が期待されていて、魅力的なまちづくりに文化が関わって欲しいと感じている。例えば子ども達を育てるのに、河内長野市がこんなに文化的に豊かなので、ここで子育てしたいと思ってもらえるような文化があると、それは大きな循環の機動力になると思う。

#### 末延委員長

都市創生課からの意見で、駅前で気軽に使える場をということがあったが、ちょうどラブリーホールから大阪芸術大学と連携したいというメールが来たところです。駅前の活性化にラブリーホールも策を練りたいという意向であった。

都市魅力戦略課からの意見については、河内長野市に関わる大学が総合して推進できる協力体制が組めたらと思う。

アートだけではなく、まちの未来を担う子どもに目を向けて、大学の専門性も活かし、みなさんで英知を出し合えればと思う。共通課題で人づくり・場づくりが出てきたが、仕組みをどこが作るか、プロデュースをどうしていくかが重要だと思う。予算的裏づけの課題も出てくる。

ふるさと交流課から、今ないクラブ活動の推進を全市体制で行うというのはユニークで面白いと思う。学生のクラブ活動にお年寄りも関わる、子どもと大人が一緒になってやるというのは良いと思います。学校現場ではこうした課題への対応をしていくには忙しく難しいのか。

#### 今村委員

授業数確保が求められる中、小学校よりも中学校等は大変だと思う。芸術は現場からか

け離れている印象である。

人を集めようと思うと、安心して来れるようにしないといけない。理想は西宮の芸術文化センターで、河内長野市との違いを考えていくと、芸文のHPには「サポート」という文字が目立つように書いてあり、子どもを連れて行く際に、保育室などの情報がすぐに出てくる。西宮北口と河内長野駅前は似ているようなところもたくさんあると思う。河内長野だからこそ人を集められる部分もあると思う。

また、情報発信の仕方についてだが、新聞に載るのは大きなことだと思う。私の勤める学校は河内長野市全域から生徒を集めてる。今までは地道に幼稚園などに伺い話をしてきたが、たまたま今年マスコミに出る機会が多くなり、それによって問い合わせの件数が非常に多くなった。情報発信の仕方はポイントだと思います。

次に、どのように産業等に繋げていくか。イベント等を実施するにしても資金は必要なので、諸々組み合わせるやっけていくというのが重要だと思う。人が集まるのが大事であり、さまざまな年齢層の人が安心して集まれる場が必要だと思う。

#### 安福委員

学校にハガキ・DMを持っていき、市美術協会の展覧会や府美術家協会の情報を発信しても、子ども達が来るという気配は無かった。キックスで幼稚園から高校生までの作品展を行っているのですが、その際にポスターやハガキを配らせてもらっているが、あまり効果が無い。子どもが忙しいのか、魅力が無いのか、両方かと思ったりもしている。行きたいと思わせるような魅力を作らないといけない。

#### 末延委員長

今年、キックスで中学校の美術作品の展示を行った。その際に、何か展示するだけでなくワークショップができないかということで大学に相談がありサンドブラストアートを行った。展示するときの発信にしても、各大学の英知を集めて事業展開できないかと思う。大人も子どもも参加する場づくりの中で何かできるのではないかな。

#### 安福委員

その催しに行った際、会場には若い世代が多かった。どのような情報発信を行ったのか。

#### 末延委員長

ポスターだけでなく、小さなハガキ等を生徒に渡した。しかし、一般家庭には渡っていないと思う。市の広報紙やタウン誌に載せたかったが、できなかった。

#### 中協委員

キックスも河内長野市文化振興財団が管理しているが、文化振興計画に該当する施設になるのか。

#### 東畑主査

キックスは生涯学習施設です。生涯学習には、別途、計画があります。

#### 中協委員

文化振興計画とは別の計画に基づき運営・管理が行われているということか。キックスも文化振興計画に入るような書き方をしないと、同じ主体が管理しているのにバラバラの

評価になると効率が悪くなり、もったいないと思う。

**末延委員長**

キックスの方がラブリーホールよりも、よりコミュニティ的な役割を担う施設になると思う。

**宝楽委員**

公民館は、行政としてはどの分野に位置づけられるのか。

**浅野委員**

社会教育の分野になる。

**中協委員**

循環に関してだが、河内長野市は人口減少が進んでおり、近い将来10万人を切るだろうという都市課題がある。情報を共有し循環していくことで、「文化」が各課題のつなぎ役として存在し得そうだと思う。

一方、河内長野市内を巡ってみて、都市課題の内容も多岐に渡ることが分かった。そのような中、ラブリーホールは今後、市内の各地域との連携を深めて、河内長野市の多様な魅力を発信するシティプロモーションの役割を担う施設として情報発信した方がいいのか。もしくは市民にとっての晴れの場として、単体で発信した方がいいのか。

**中道委員**

ラブリーホールは市民みんなの晴れの舞台になってほしいという思いがある。有名な芸術家に来てもらうということも大事だと思うが、市民の思い出の中で輝くような場所であることが重要だと思う。それが地域の中で循環することに繋がると思う。子ども達が思い出を作れる場所になると、河内長野市に愛着が湧き、成長し市外へ出て行っても戻ってくるようになるのではないかな。

**末延委員長**

公民館や小学校での活動の目標がラブリーホールであってほしい。公民館的な場所はコミュニティ、日常の場であり、ラブリーホールは目標となる非日常の場だといいい。

**中協委員**

今までの話は出る人側の晴れの場のイメージですよ。ラブリーホールの事業は、有名芸術家に来て公演が行われるといった事業の方が多と思う。鑑賞型事業の場合は、市外の方を呼びこむきっかけとして使えると思うが、それよりも住んでいる人が非日常を楽しむ場として、市民の利用率を上げる方がいいのか。

**中道委員**

憧れの場所になるためには、近所で無い人が舞台に立っていることも一つの要素だと思う。外から有名な人が来るぐらい魅力あるホールであることも大事だと思う。ただ、それが中心というわけではないという感じがする。

**安福委員**

ラブリーホールにはレストランがあるが、河内長野市にはそういう場があまりにも少ないと思う。工夫できることもあるのではないかな。

#### 今村委員

今レストランにはたくさん人が入っている。あの人たちはランチが終わるとどこへ行くのか。ホールの中に入っていく人はいるのか。イベント・教室に行くのか。

#### 中道委員

レストランだけを魅力に思ってきている方は多いということか。もったいないですね。

#### 安福委員

催し物がある場合は利用者が多い。レストランに入れず、はみ出た人が行く場所が駅まで行かないと無い。

#### 中脇委員

市外から訪れたいと思ってもらうには、中心市街地と奥河内の連携が重要になるのではないか。都市魅力戦略課や都市創生課などと連携し、そういう視点で取り組む方がいいのではないかと思う。単独事業で河内長野に来たいと思ってもらえる事業をすることに力を割くよりも、連携して事業を組み立てる方がいいと思う。

連携でも2つの意味がある。発信力を上げるという連携と、地域コミュニティの力を上げるという連携がある。循環や連携という言葉を使う時も、性格を分けた方がいいと思う。

#### 宝楽委員

生涯学習施設と連携するなら、連携や循環の意味合いを精査することは重要だと思う。認知を上げるためには、まずアイデンティティを形成するような性格の「文化」が必要だと思う。

現在、ラブリーホールは「晴れの場」として非日常的な場として機能しているが、委員会の話題としては、連携・循環に重きがあり、社会教育的に文化を捉える話が多かったと思う。

#### 中脇委員

宝楽委員、まとめの整理をお願いします。ホワイトボードに記載された赤と青の使い分けの意味を教えてください。

#### 宝楽委員

赤は、委員の中での共通点。一方でラブリーホールは晴れの場で非日常としての性格が強調されていた。アイデンティティを形成する文化合意形成は図れていたが、社会教育的な話題が多かった。青は、人づくりなど裾野を拡げていくもの。また、河内長野に行こう・住もうといった魅力の発信が弱いことが分かってきた。その問題は他の計画との整合性をどう図るのかに関わる。社会教育の範囲を公民館として捉え、キックスが繋ぎ、ラブリーホールに人が流れる。またコミュニティは公民館が行うといったイメージもあった。

#### 中道委員

生涯学習との棲み分けという話があったが、生涯学習は上位概念で社会教育を包括している。切り分けるのは無理で、どこまで寄り添えるかといったことになる。生涯学習の結果として文化の学びがある。生涯学習の大きな命題の中で、循環が入っている。

#### 中脇委員

各計画が重なり合うような計画にしたいと思う。

**中道委員**

生涯学習、社会教育、民間教育、学校教育がみんな連携する、そういったことを総合的に考えられるのが生涯学習の計画であり、その成果としての文化は、文化として考え、文化の中でイニシアティブを取らないといけないと思う。

**浅尾委員**

生涯学習の計画は、どの程度進んでいるのか。

**上田主幹**

現在、生涯学習計画は第二期計画を10年間の計画期間で策定しています。文化振興計画と並列した位置づけの計画となっています。学びを活かしてまちづくりをしていくというのが大きな目標として定められています。計画の中心になる施設が、キックスであり、施策の中心になるのがくろまる塾というイメージです。

**森井課長**

上位での生涯学習という意味よりは、狭い意味での生涯学習という風に捉えて頂いた方がよいかと思います。先ほどのご議論のような包括したような形にはなっていないのが現状です。

**浅尾委員**

各課ヒアリングの意見の中にあつた、いきいき高齢課の高齢者をいかに家からひっぱりだすか、そういうところに文化はあると思う。そこを議論しないとイケない。

**中協委員**

文化の方から逆に生涯学習の要素を盛り込んだような計画にしていくということですね。

**浅野委員**

高齢化し、子どもが減っていく中では連続性、連環が必要と思う。河内長野市を活性化させるには、高齢者をいかに巻き込み、元気にしていくかが大事だと思う。

**末延委員長**

河内長野市は近隣の市町村の中でボランティア活動が一番活発である。

**中協委員**

既に活発な高齢者がいるが、問題は上手に結びつける人がいない、仕組みがないということである。その問題に向けて文化振興計画としてどういった人材を育成していくのかを示す必要がある。そういった専門職を雇う等でもいいと思う。

**中道委員**

そういう人を育てていく場として、生涯学習があり、そういう面と連動していくことが重要だと思う。

**来村委員**

計画立てるときは、柱を立てないといけないと思う。これまでの議論だと、「循環」と「認知」の柱が既に立っている。三本柱はどうか。「感動」が文化では大事だと思う。例えば、「循環」、「認知」または「発信」、そして「感動」を柱としながら、今までの議論をくつつ

けていくといいのではないか。

**中脇委員**

「感動」は従来のラブリーホールが行ってきた部分で、「発信」はシティプロモーションとの連携、「循環」はコミュニティとなる。

**末延委員長**

今回は、この柱立てについて話をしていきましょう。

**中脇委員**

今回は市民アンケートの結果が出ているのか。

**東畑主査**

今の予定では、市民アンケートの発送は1月です。次回会議は、2月の開催を予定していますので、市民アンケートの結果は集計中かもしれません。

**中脇委員**

市民アンケートの結果が出てから開催したほうが良いのではないか。

**末延委員長**

みなさんの予定を見て開催しましょう。2月予定ですが、市民アンケートの結果次第で変わります。

以上